

児童生徒の情報モラル教育の推進について

教 学 指 導 課
教学指導課心の支援室

1 現状と課題

「情報モラルに関わる緊急調査」（平成 23 年 11 月 心の支援室実施）による 【別紙参照】

- 本年度、携帯電話や情報モラルに関する生徒指導上の問題が発生している学校は、中学校では約 40%、高等学校では約 50%となっている。
- 問題の内容では、加害・被害とも人権侵害・名誉毀損・侮辱が最も多く、中学校では 26%、高等学校では約 30%となっている。
- 各校では、情報モラル教育の必要性を認識し、計画的な情報モラルの指導を行っているが、校内研修会の実施状況は、小・中学校では約 60%、高等学校では約 50%にとどまっている。
- 情報化社会の急速な発展に対応するための教職員の知識や、児童生徒の実態把握に不十分な面がある。
- 情報モラルの問題について、児童生徒、保護者、教職員の捉え方にばらつきがあり、学校と家庭との課題の共有化が難しい。

2 対応策

（1）新たな取組

- ① 全小中学校の情報担当職員対象の研修の実施
 - ・ 平成 24 年度情報化担当教員研修会（5 月）
 - ・ 参加者が学校に戻り、校内研修会を実施
- ② 学校における情報モラル教育推進の環境整備
 - ・ 「情報モラル教育」に関する最新の教材・資料の集積や活用の促進
 - ・ 「情報モラル教育」指導者に関する人材情報の提供
- ③ 学校の ICT 化をサポートする体制づくり
 - ・ 県教育委員会事務局内に「情報教育推進プロジェクトチーム」を設置
 - ・ 「学校における指導」「学校・家庭・地域の具体的な連携」のあり方についての研究を推進

（2）充実・改善する取組

- ① 管理職への意識啓発
 - ・ 校長会、教頭会等で情報モラルに係る最新情報の提供
 - ・ 校内研修活性化の促進
- ② 多様な機会を捉えた「情報モラル研修」の実施
 - ・ 生徒指導主事会議、人権教育連絡協議会（小・中・高・特別支援学校の教員）、教育課程研究協議会（高等学校情報部会）等における「情報モラル研修」の位置付け
- ③ 総合教育センター研修の充実
 - ・ 「情報モラル教育」に関する希望研修講座の受講定員枠の拡大
 - ・ 悉皆研修（初任者、5 年経験者、10 年経験者研修）における「情報モラル研修」の充実

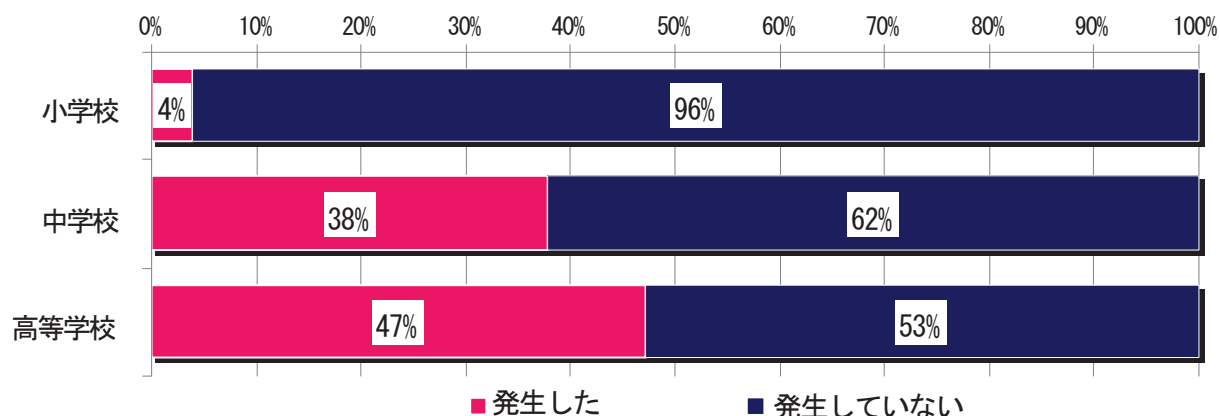
(別 紙) 「情報モラルに関わる緊急調査」のまとめ <抜 粋>

教学指導課心の支援室

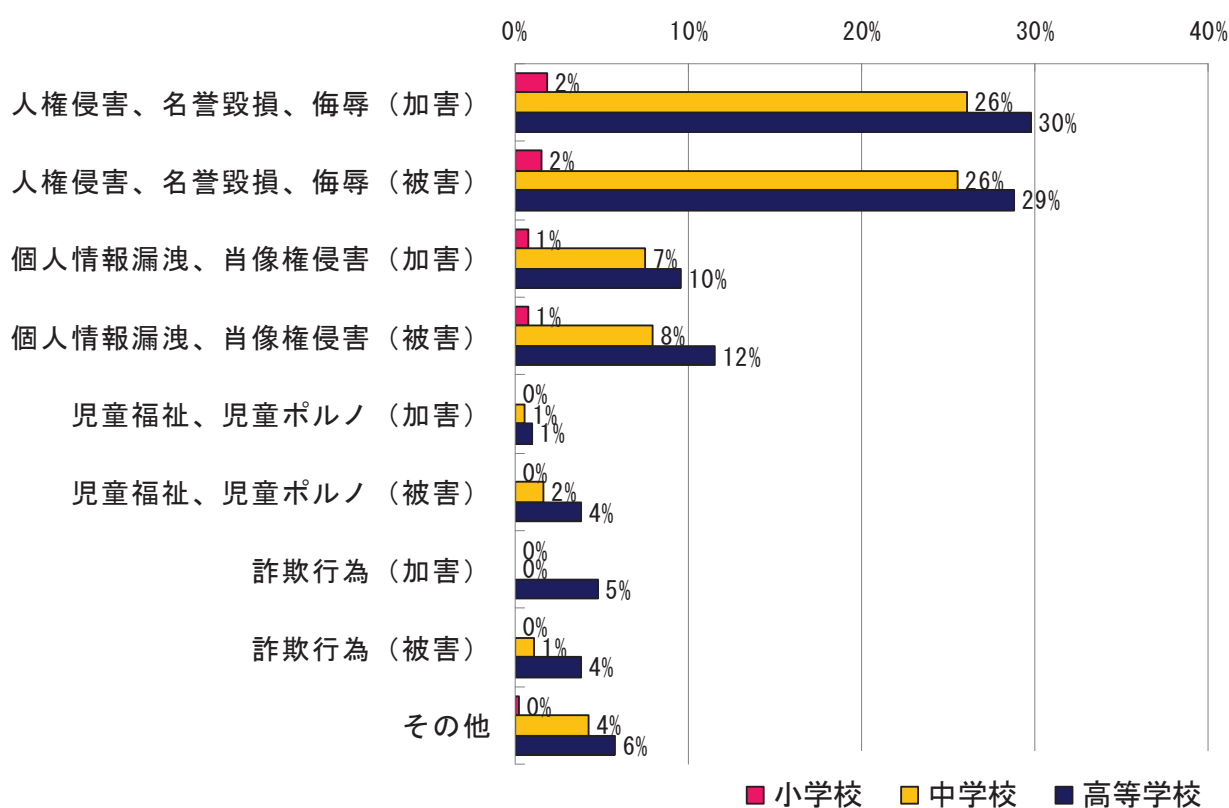
○ 調査対象校 : 県内公立小・中・高・特別支援学校

○ 調査対象期間 : 平成 23 年 4 月～11 月

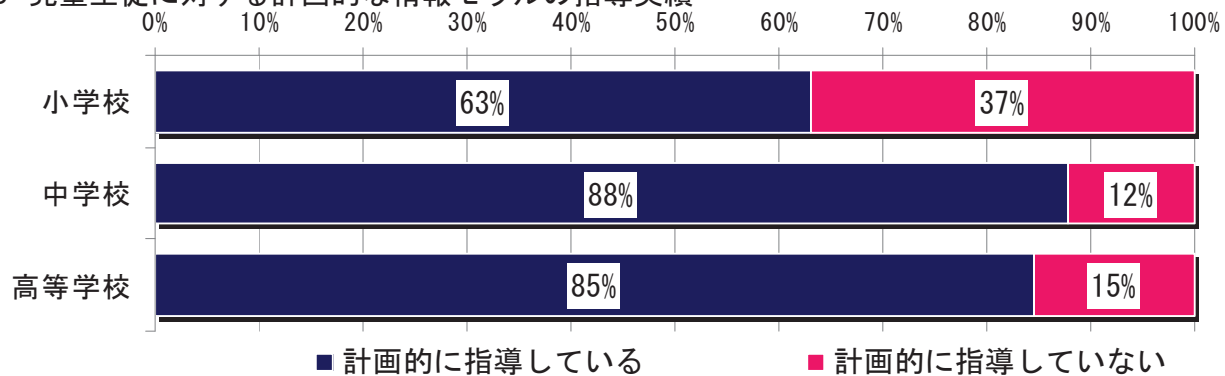
1 携帯電話・情報モラルに関わる生徒指導上の問題の発生状況



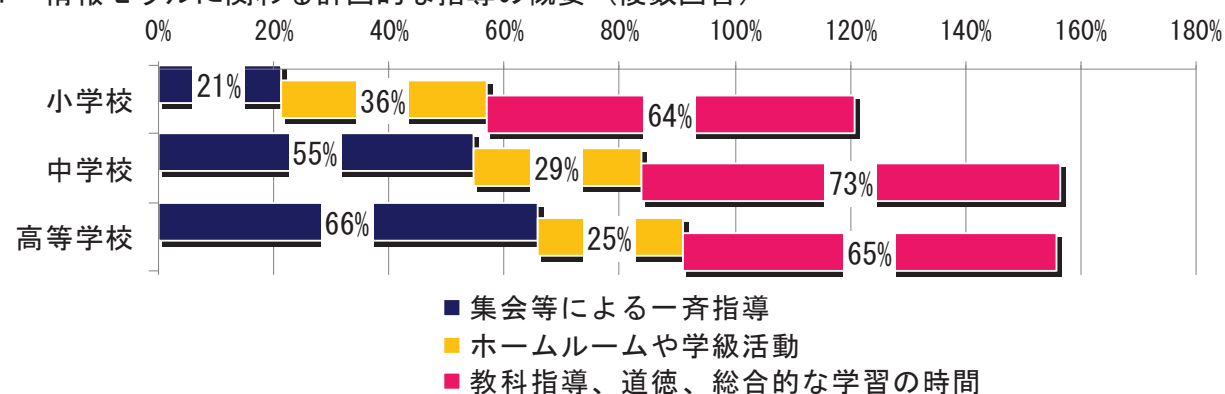
2 携帯電話・情報モラルに関わる生徒指導上の問題の概要



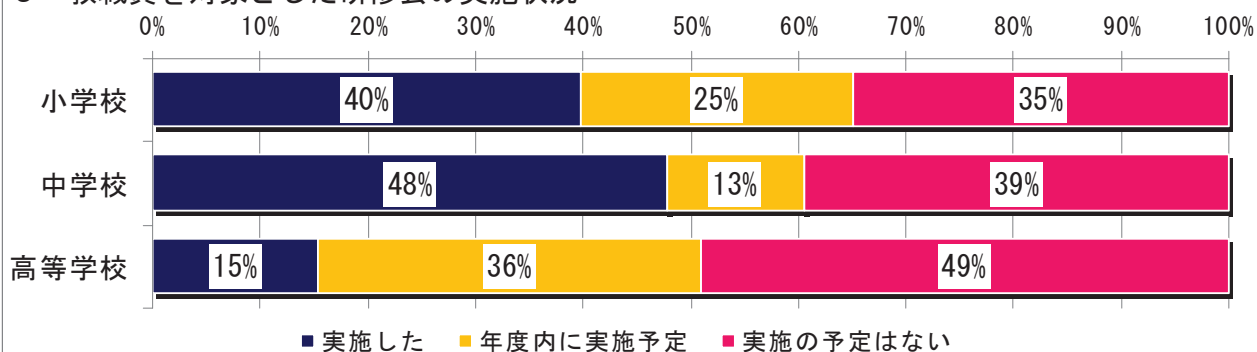
3 児童生徒に対する計画的な情報モラルの指導実績



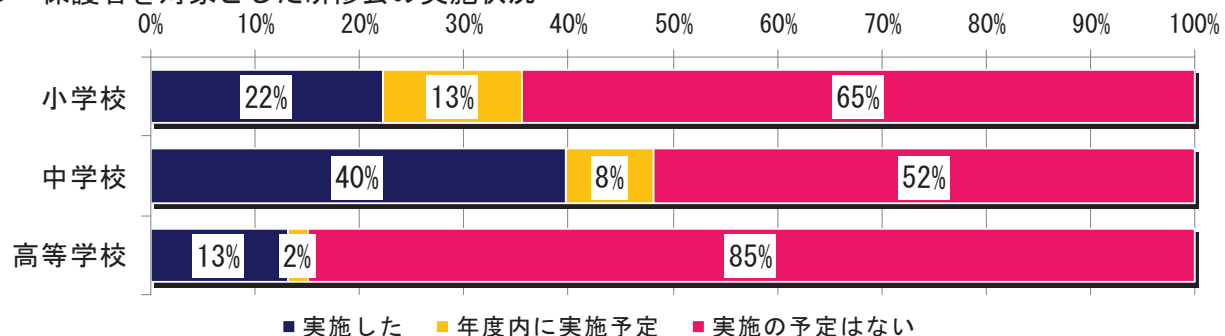
4 情報モラルに関わる計画的な指導の概要（複数回答）



5 教職員を対象とした研修会の実施状況



6 保護者を対象とした研修会の実施状況



情報モラル教育推進上の課題（学校の意見）

教学指導課心の支援室

【小学校】

- 教職員が、情報モラルに関する知識や現状について、把握できていない状況がある。
- 教科や学習する内容が増え、情報モラル教育の時間確保が難しい。
- 他教科に比べてカリキュラムの構築が遅れており、指導計画の具体例が広まっていない現状がある。
- 情報モラル教育とともに、道德等で人権意識を十分に高める教育の必要性を感じる。
- ネット上で模範的な操作ができるサイトや児童が被害に遭った事例等があると指導しやすい。

【中学校】

- 中学校入学時から携帯を持たせている家庭があるので、幼保小の段階から保護者に法的責任も含めて、携帯やネットの諸問題について啓発する必要がある。
- 保護者の認識が低かったり家庭ごとに指導がまちまちであったりで、学校と家庭との課題の共有化が難しい。
- 携帯使用は校外や家庭のため制限や監視ができず、使用者の欲求で動いてしまう。
- 生徒が実際に起きている事件等について、遠くのことと捉えがちなので切実感をもたせる必要がある。
- 教科指導、道德、総合的な学習の時間に関連づけて指導することは難しい。
- 社会に対して規範意識や他人を思いやる心情が育っていないため、インターネットの危険性を教えても誹謗・中傷が無くならない。
- 必要、適切な事例に基づいて指導していただける講師が見つからない。
- 幼保小中が連携して「ネットの危険から子どもたちを守ること」、「携帯電話は持たせないこと」に取り組んでいく予定である。

【高等学校】

- 授業や講演会で情報モラル教育を行っても、自分の問題として捉えられていない。
- 個人所有の媒体であることと、プライバシーに係わることで多く、簡単に踏み込めない。
- 幼児期から情報機器を手に行っている高校生にとって、仮想現実社会はモラル上に構築されていない現実がある。
- 生徒達がどういう使い方をしているのか、どういう問題があるのか把握するのが難しい。
- 生徒がこれまで身につけてきた道德的規範意識に、状況判断のために必要となる情報技術を与え、それらを組みあわせる合理的判断力を身につける必要がある。
- 高校入学時にはほとんど携帯電話を所有しているため、小学校から系統的にモラル教育を行う必要がある。
- スマートフォンに対する指導の必要性がある。
- 情報教科が3学年で設定されているため、1・2学年での指導が難しい。
- 全ての教員が同じ指導をできるようなシステムづくりが急務である。